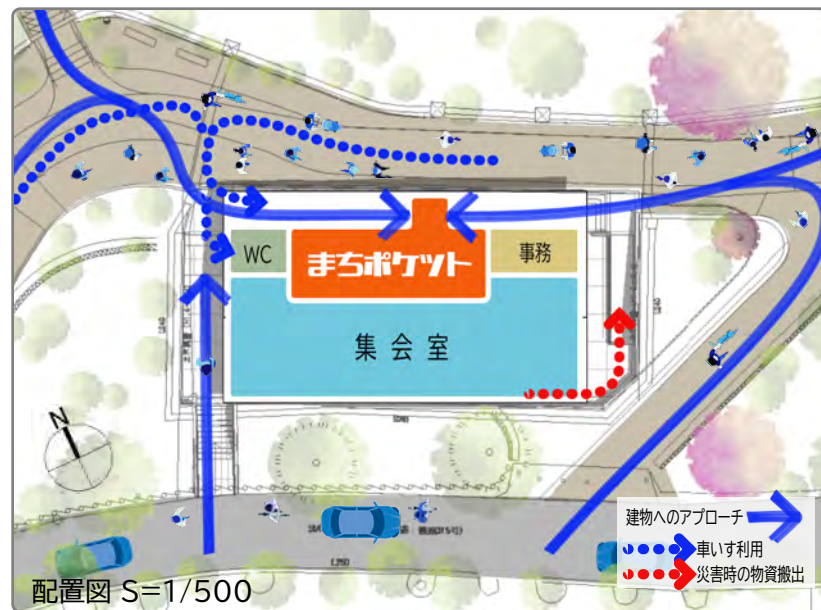




次世代型自治会集会所 【まちポケット】のある町内会館

公園側に開放された外観を持つこの建物は、緑になじみ、人と光と風を招き入れている。小さくても便利な地域社会の拠点として、日常的な立ち寄り所、会合や定期的な活動の場、祭りや防災的な役割も担うことができる。さらに、アナログ的な交流の場を継続的に提供する一方で、将来的な町内会活動のデジタル化を段階的に推進する場としても貢献する。



B エントランス(館名表示板)

建物へのアクセスは、複数方向から利用が予想されるが、散歩やランニング、通勤・通学といった日常的な動線を含めると、主なアプローチは公園側からになると考えられる。また、エントランス部分だけを大屋根の庇の下で際立たせる配置が施され、看板としての象徴的な存在として、訪れる人々の目印となる。

B オープンテラス



【まちポケット】と一体的に利用することができ、イベントや災害時には室内外を柔軟に活用することでその効果を発揮する。公園を見下ろす場所に位置し、四季折々の変化を感じやすく、人々が自然に集まる魅力を備えている。

A 篠原台町【まちポケット】

誰もが身近に感じ、ちょっと立ち寄りた気持ちにさせる「ポケット」という名をもつこの空間は、集会室への動線確保の為に廊下という役割に加え、町内会館の多世代による利用を促す場として活用される。

F 公衆トイレ・給水所

公衆トイレのマイナスイメージを払拭し、明るく清潔な場所とする。更衣室としての利用も可。比較的大きな窓の位置を検討し使用状況の把握とともに防犯性を高める。隣接する給水所は運動や散歩中の水分補給に利用できる。

D 集会室ドアパネル

集会室の区画では、取り外し可能なパネルドア(多種の機能面材に対応)を採用。倉庫内に収納できるように設計されている。操作が簡単な一方コスト高になる可動間仕切りのシステム製品を採用せず、柔軟な利用が可能な従来の建具を使用することで、住民が共同作業に積極的に参加することを促す。

E 倉庫・収納・防災倉庫

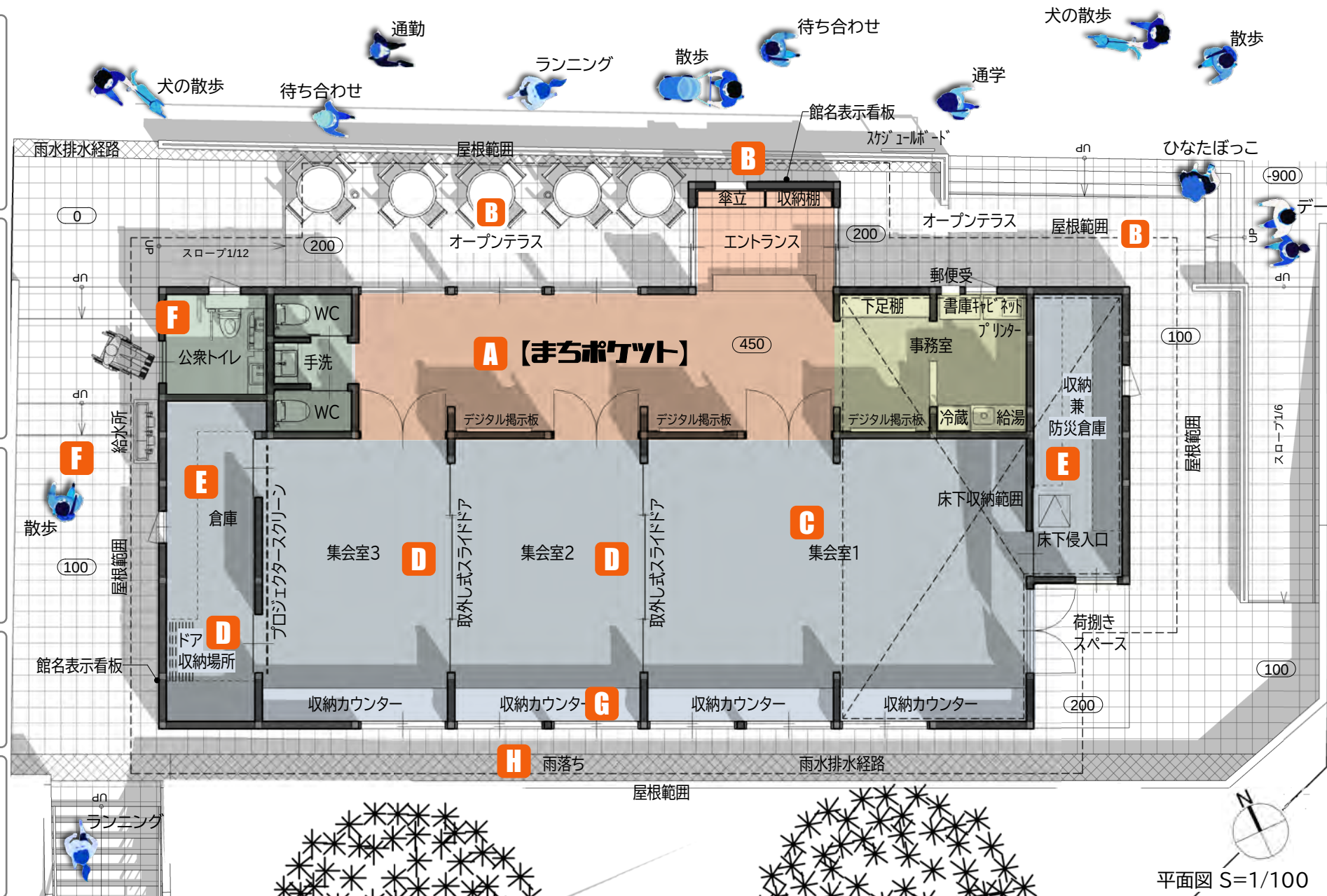
卓球台や椅子などの備品を収容するほか、災害時物資や機材置場としても活用(深基礎部分は床下の備蓄庫とする)。また、搬出用の荷捌きスペースを外部の軒下にし、災害時、祭りやイベント時の搬出入にも対応。

G 収納カウンター

窓側はサッシからの熱の流入を抑えるため、腰上までの窓とし、窓台の下には、文房具や書類などを収納できるカウンターを設置。

H メンテナンス

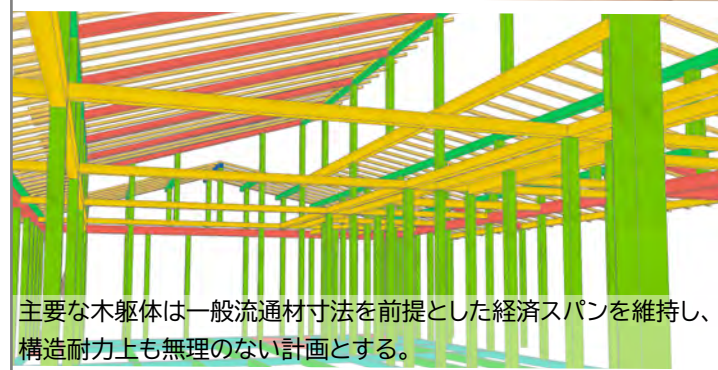
南側の松の落葉が屋根に堆積し、種子が発根する恐れがあるため、雨樋の代わりに「雨落ち」を雨水排水経路とし、メンテナンスを容易にする。



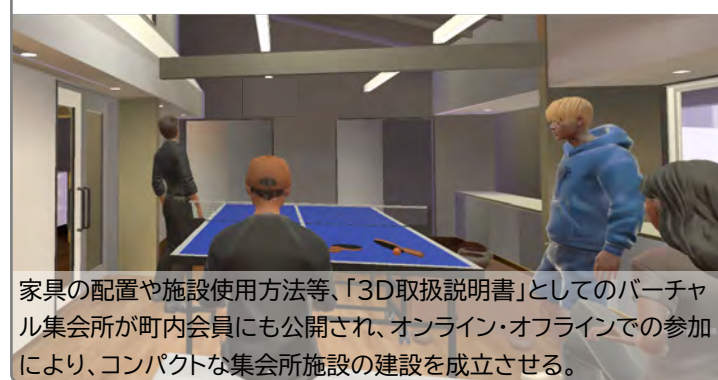
C 集会室



区画変更に応じ、【まちポケット】経由で集会室の柔軟な利用が可能。自然光や風通しを十分に検討し、空調や照明設備によるランニングコストの削減を可能とする



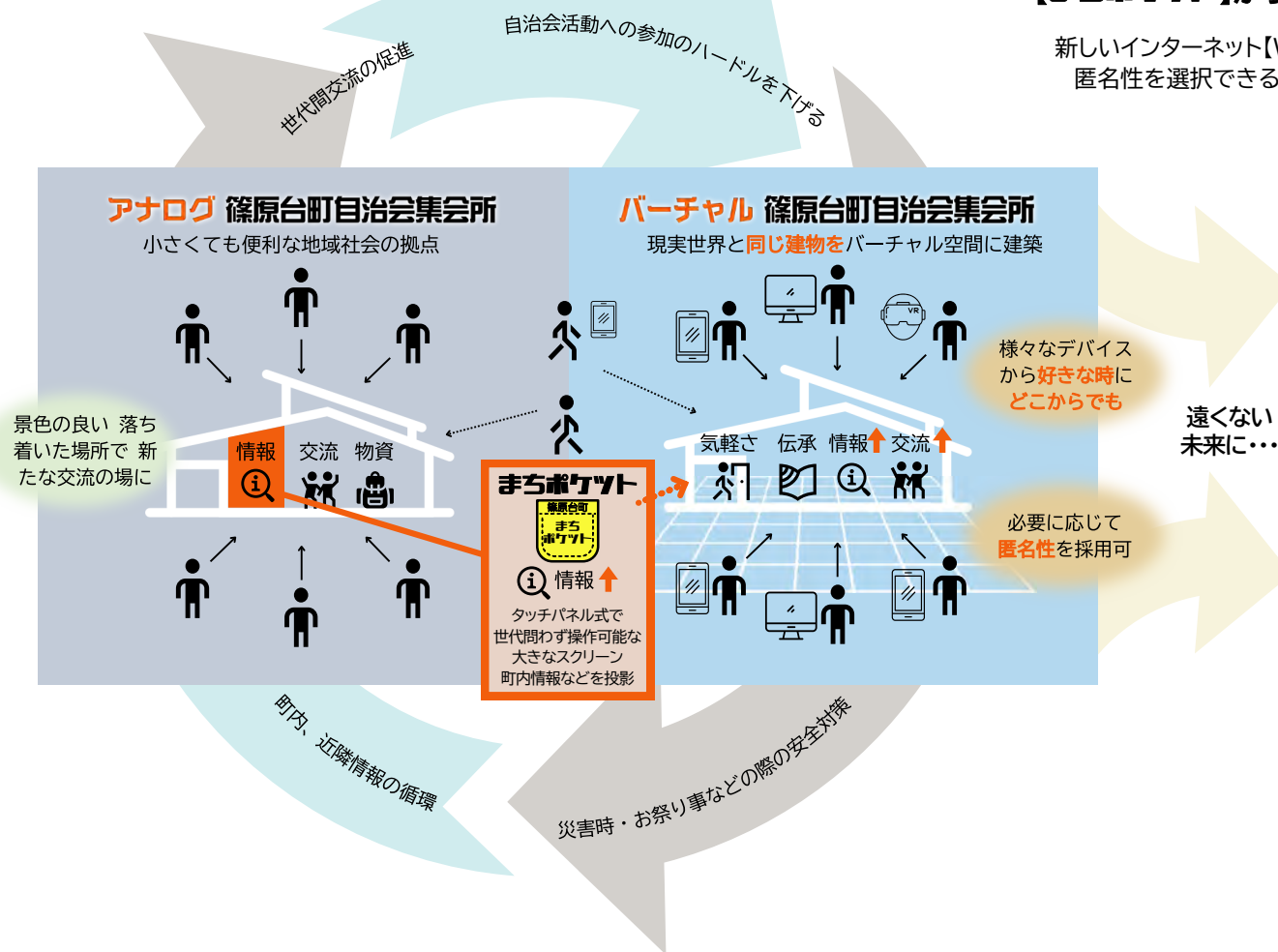
主要な木躯体は一般流通材寸法を前提とした経済スパンを維持し、構造耐力上も無理のない計画とする。



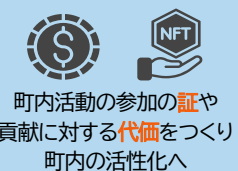
家具の配置や施設使用方法等、「3D取扱説明書」としてのバーチャル集会所が町内会員にも公開され、オンライン・オフラインでの参加により、コンパクトな集会所施設の建設を成立させる。

いま必要とされる新しい自治会館 ～【まちポケット】から始まる良き循環

新しいインターネット【Web3.0】技術を段階的に導入し、より心地よい篠原台町へ。必要に応じて匿名性を選択できる仕組みを備え、誰もが参加しやすい環境を実現する。



篠原台まちトークン (デジタルコインやNFT)



●トークン・DAO

プライバシーを重視する場面では匿名性を確保し、資金管理や意思決定では透明性を維持。ブロックチェーン技術により、柔軟で公正な運営が可能となる

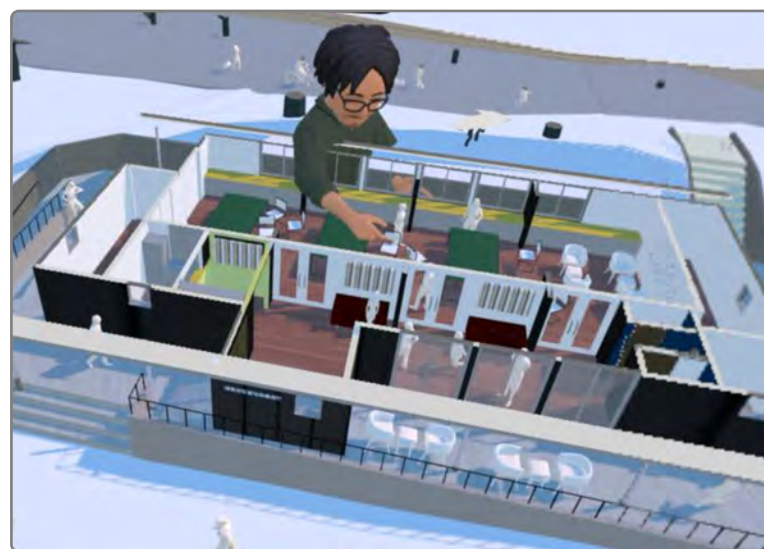
※ブロックチェーン
＝ みんなで共有する
改ざんができない記録ノート

篠原台町DAO (自立分散型組織)



●メタバース

現実世界の延長として、スマホやPC、VRゴーグルから気軽に参加できるバーチャル空間。外出が難しい人にも自治会館への門戸を開く。「ともに生きる社会かながわ憲章」が目指す共生社会の実現にも活用されている。



●バーチャル空間の段階的導入

まずは「3D取扱説明書」として集会所設備の通常時・イベント時・避難拠点時などの利用方法を提供し、次第にオンライン総会や連絡網、集会室の予約管理など、多様な用途へ展開。【まちポケット】では、アナログな集会所も可能で、デジタルツールを使ったバーチャルな活動にも触れる場所となる。



●最新技術の導入検討

町内会施設を時代の生活様式に合わせた、より利用しやすいものとするため、トークン(地域通貨)の活用や、民営の究極形ともいえる自立分散型組織(DAO)による施設運営など、新しい仕組みの導入も視野に入れる。

新しい出会いを期待させるコンパクトな【まちポケット】は、包み込まれたような安心感があり、従来の大規模施設とは違うコミュニティ施設となる。篠原台町【まちポケット】が『先導的な事業』として始まり、市内各所でのコラボレーションや情報共有、新たな連携のシンボルとして拡張する可能性も視野に入れている。

建物概要

用途:自治会館
構造:木造平屋建
敷地面積:402.73㎡
建築面積:160.67㎡(39.8%)
延床面積:149.58㎡(37.1%)



概算総事業費

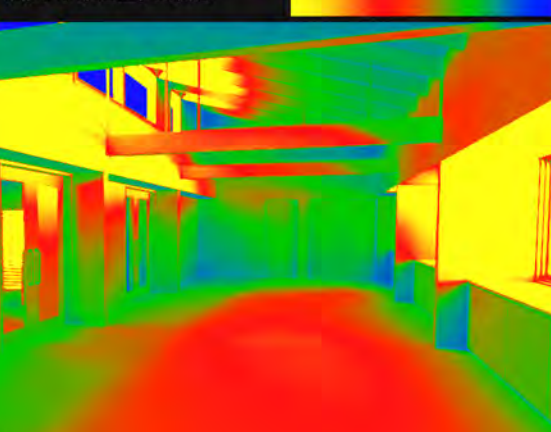
本体工事費	3,150万円
設備工事費	540万円
設計・工事監理費	360万円
消費税	405万円
総工事費	4,455万円

別途工事: 外構工事・家具等備品・敷地測量・地質調査・地盤改良・登記・保険等



自然採光

曇天の冬至10:00での照度は、集会室中央床面でJIS基準照度(6-700ルクス程度:居間・小集会室)を確認



自然換気

※気象庁の観測統計(過去30年平均)によると、横浜では6～8月は南西風となる一方、それ以外の時期は北風が主に吹く傾向にある。

